

豊かな「知恵の果実」を育むために ～ 知恵産業が促す京都創生 ～

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

訪日外国人観光客の増加を背景に、観光関連産業が国内景気を押し上げています。京都も例外ではなく、本格的なインバウンド時代を見据えながら「世界交流首都・京都」の実現に向けた受け入れ環境の整備や交流インフラの構築が急がれます。交流人口や観光消費の増加を新たな雇用の創造や地域経済の成長に結びつけるとともに、広域的な連携や観光産業以外のビジネスマッチング等によって、交流効果がまち全体へと波及する「交流と連携の好循環」を生み出してまいりたいと思います。

全国の地方創生が始動する中で、京都の知恵を活かした「京都創生」の中心を担うのは、知恵ビジネスをはじめ、地域で消費や雇用を生み出す内需型の中小企業です。未来に向けた成長の基盤づくりを加速させるためにも、京都が誇る「ものづくり」「観光」「文化」といった強みを活かしながら、健康・医療・介護、農林水産業、ロボット、新エネルギーなど分野を越えた連携によって、クリエイティブな商品やサービスが生み出されるような環境を整えることが必要です。「京都創生」の鍵は、多様な人々による知恵を活かした取り組みにあり、本所が推進する知恵産業には大きな可能性があると感じています。

本年は、平成25年に策定した3カ年計画「ニュー京商ビジョン・サードステージ」の仕上げの年です。オール京都による知恵産業の育成・支援によって、“知恵”に関わる認証制度の取得企業が約1,400社に及ぶなど、次代の京都産業を担う知恵ビジネスは着実に広がりを見せております。昨年にはオール京都による「京都知恵産業フェア」を東京で開催するなど、知恵ビジネスの市場を国内外に拡大させていくための基盤が整いつつあります。知恵ビジネス次々と自律的に生まれ育つ「知恵の連鎖」を促すとともに、小さくとも

知恵を発揮する中小企業が生まれ育ち、新しい社会ニーズや価値観に対応した多様な産業群が集積する「知恵産業の森」の実現に向けて、取り組んでまいりたいと思います。

干支の十二支は、農作物の成長過程を表すと言われています。今年の“申”という字は「草木が十分に伸びきり、果実が成熟していく状態」を表すそうです。大地にしっかり根付いた知恵ビジネスの木々に、今年は豊かな「知恵の果実」が実る… そんな成長の姿が描けるように、「知恵産業のまち・京都」を推進していきたいと思えます。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げ、新年のあいさついたします。

平成28年1月1日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄